

地理的分野研究発表・実践報告

主題 「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学習」

副題 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

研究仮説 単元や内容のまとまりで授業を構成し、「問い」と「資料」で迫れば、「深い学び」を実現する授業につながると考えられる。

[工夫]

- (1) 単元や内容のまとまりで授業を構成し、問いと答えの距離を遠くする。
- (2) 問いは「どのような」を乗り越え、「なぜ」「なに」を中心にする。
- (3) 生徒が問い続けられるように、問いと資料で生徒に迫り、先生は答えを言わない。
- (4) ともに学びあう場面を設定する。

→学びあいには2つの場面がある。①認識を深める学びあい

②価値判断や意思決定へといたる学びあい

神戸市立星和台中学校 教諭 山田 しほり

1. はじめに（分野と研究主題とのつながり）

神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ地理分野では、「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学習」～主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり～を実践するために、研究を重ねてきた。

令和7年1月に、神戸市は阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）より30年の節目を迎える。阪神・淡路大震災では、行政は多くの制度や体制の見直しに迫られ、我が国の災害対策の転換点となったと言われる。同時に、救助・復興・防災活動については、神戸市民の助け合いの力「市民力」が多く伝えられることとなった。神戸市が歩んできた過程を振り返り、一人一人の子どもが自ら主体となって未来をつくるためには、地理的分野の学習の果たす役割は大きい。

学習指導要領では、地理的分野の目標を「地理的な見方・考え方を働かせ」「社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することと定めている。そのためには、「調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける」ことや「多面的・多角的に考察」したり、「地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力」またそれを説明したり議論したりする力を養うことが必要であると述べられている。

地理的分野は、中学校における社会科の入り口として、小学校で学習した内容を振り返り、読図などの基本的技能を身につけ、また、社会科学習の楽しさにも気づかせ、その後の学習を円滑に進めていく役割を持っている。

そのために、3年間を見通して、「問い」と「資料」を用いて生徒たちが自ら「深い学び」にたどり着くために、教師のための教材研究を積み重ね、生徒のための教材研究へと発展させていくことが重要だとの考え方に基づいて授業づくりを行った。

授業づくりにあたっては、龍谷大学法学部中本和彦教授にご指導をいただいた。

中本教授は、「深い学び」のための3つのポイントとして、

- (1) 単元や内容のまとまりで授業を構成し、問いと答えの距離を遠くする。
- (2) 問いは「どのような」を乗り越え、「なぜ」「なに」を中心にする。
- (3) 生徒が問い続けられるように、問いと資料で生徒に迫り、先生は答えを言わない。ということを挙げられている。これらに、
- (4) ともに学びあう場面を設定する。を加えて、この4つの[工夫]を実践し、研究仮説を検証する取り組みを行った。

2. 研究の方向（これまでの実践）

地理的分野研究会では、令和4年度より、本大会の主題や研究仮設・工夫に基づく研究活動を進め「問い」と「資料」による「深い学び」に焦点を置き、教育実践を行った。

令和5年には、玉津中学校の飯原 崇仁教諭が試作した指導案を用いて公開授業を行った。

【飯原 崇仁教諭の実践】

令和5年2月2日 玉津中学校2年生 日本の諸地域 「東北地方」

飯原教諭の実践では、「複文型の問い」で授業を構成することに重点を置いた。

○複文型にすることの意義

- ・文章の対比が生まれ、何に対して問題提起をしているのかが明確になる。
- ・生徒の既存知識を覆すことにつながる。

飯原教諭は、複文型にすることで、今回の実践においても生徒が興味をもちながら次のステップへ進むことができたと述べている。

○授業実践後見えた問題点

授業の展開は授業者のイメージ通りに進んだものの、授業の枠組みを超えるような意見や考え方が出てくることはなかった。

○問題点に対して中本教授の指導助言より見えた改善点

- ・「資料の選別」の重要性

「資料」は「なぜの追究過程」において必要不可欠なものである。授業中に取り扱う資料については、生徒が知的に挑戦できるように『①問いを発見させる資料』『②仮説を立てさせるためのヒントとなる資料』『③仮説を検証する資料』『④答え(見方・考え方・概念)を活用(応用)させるための資料』であることが必要である(4つの資料)。

「なぜの追究過程」においては、『③仮説を検証する資料』を考える「資料の調整のプロセス」が必要となる。「資料の調整のプロセス」は、子どもたちの過去の学習の経験に基づいて行われるのが適切であり、より効果的に行われるためには、単元や内容のまとまりで授業を構成することが必要である。そのため、単元を貫く問いを適切に設定し、毎授業の中でポートフォリオを活用し、振り返りを行わせることで、必要な資料を考えられることができる。とご教示いただいた。

これを受けて、地理分野研究会では、各々の授業において、単元や題材など、内容のまとまりを見通し、その中で生徒に身に付けさせたい力を考慮し、単元を貫く問いを設定することとした。また、その際に、「どのような」ではなく、「なぜ」の問いを立てること、ポートフォリオを作成し、学習の振り返りを行うことを実践し検証を行った。

3. 研究内容（パイロット授業から）

（1）単元構想

- ① 単元名 世界の様々な地域 「人々の生活と環境」
- ② 単元設定について

開発する単元は、以下に示す学習指導要領の大項目 B 世界の様々な地域(1)世界各地の人々の生活と環境の学習に位置づくと考えられる。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。

(イ) 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際、世界的主要な宗教の分布についても理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元は世界の地理学習の始まりとして、気候と人々の生活・暮らしを大観し、「世界の生活文化は、それぞれの地域の気候や宗教に応じた生活文化になっている。」ことを理解させることをねらいとしている。そのため、研究仮説である「単元を貫く問い、や「大きな「なぜ」を考えること」に不向きな単元であった。というのも、1時間1時間が、「気候と人々の生活・暮らしの関連性」を繰り返し学習するという構成であり、構造化することが難しい「窓方式」(項目・窓)の単元となっているからだ。

そこで、パイロット授業では、「カリキュラム・マネジメント」を実現することを新しくねらいとして定めた。1年生の1学期という、中学校の社会科授業にも慣れていない時期であることを考慮し、問いと答えの距離の短い問い＝「プチなぜ」を積み上げて「なぜ」の問いに慣らせていく。そして、2年生の3月には、大きな「なぜ」の考察や「どうしたらいい」の構想ができるように、資質・能力の育成を長期的な視野でとらえてトレーニングをしていくことに重きを置くこととした。

（2）単元目標と計画・単元構想図

【知識・技能】

- ・世界には様々な自然環境や文化があり、人々の生活が、それらの影響を受けているということが、可視化され捉えやすいのが、衣食住である。身近な食を中心に据えて、それらについて理解する。
- ・世界各地の伝統的な生活が、人々の生活スタイルの変化によって多様化し、グローバル化の進展によって、文化の画一化が見られるようになったことを理解する。







【思考力・判断力・表現力】

- ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。

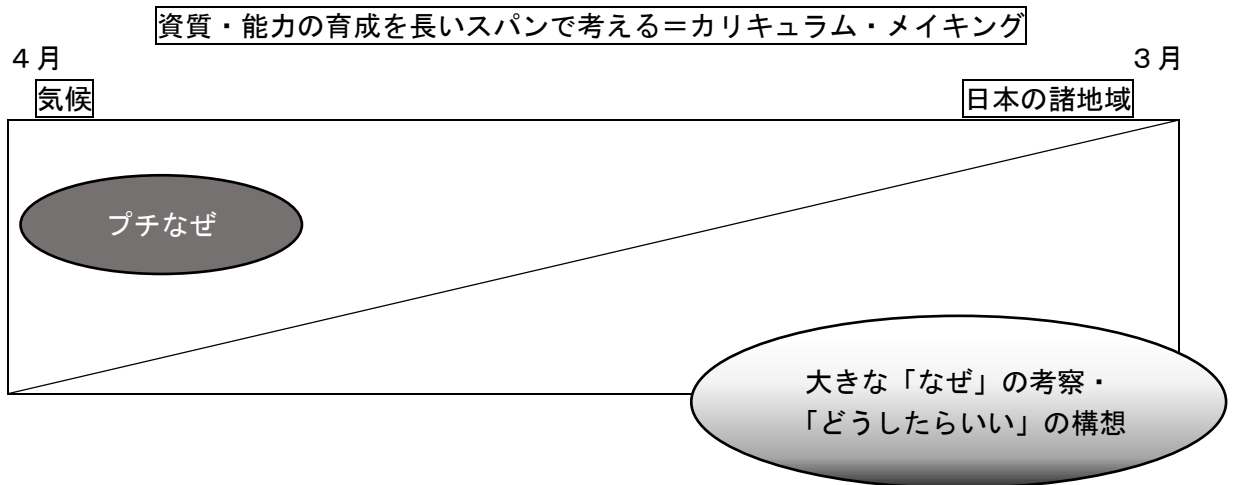
【主体的に取り組む態度】

- ・食を中心として、世界の様々な地域の衣食住を日本と比較しながら、自然環境や社会的条件が人々の暮らしと与える影響について考察し、各地の地域的特色を主体的に導き出そうとしている。

① 単元指導計画

時間	主な発問	習得させたい知識
第一時 「世界のさまざまな生活と環境」	○様々な食文化があるにもかかわらず、なぜ、日本の主食はお米なのだろう？	○その地域の自然環境に応じて適した主食が分布している。 ○世界には様々な気候区分がある。
【単元を貫く問い】なぜ、主食、衣服、家の材料が国によって大きく異なるのだろうか？		
第二時 「熱い地域の暮らし～インドネシアでの生活～」 	○なぜ、インドネシアの伝統的な住居は高床なのだろうか？ 	○降水量が多い熱帯雨林気候において、家の中に熱がこもらないために高床にしている。 ○米以外にも熱帯で育ちやすいも類をよく食す。
第三時 「乾燥した地域の暮らし～アラビア半島での生活～」 	○なぜ、人々はオアシスに集まるのだろうか？ 	○強い日差しや砂ぼこりから身をまもる工夫が伝統的な衣服になされている。 ○砂漠では、木材が得にくいので、豊富にある土をこねて作った日干しれんがが家の材料になっている。
第四時 「温暖な地域の暮らし～スペインでの生活～」 	○なぜ、スペインではオリーブ畑が広がっているのだろうか？ 	○地中海性気候は夏の瀬戸内の気候に似ていて、同じくオリーブやブドウづくりが盛んである。 ○シエスタといわれる習慣があるが、見直されている。
第五時 「寒い地域の暮らし～シベリアでの生活～」 	○なぜ、シベリアの住居が高床になっているのだろうか？ 	○永久凍土の上に立つ住居は、住居の熱で永久凍土が解けることを防ぐため、高床になっている。 ○短い夏があり、野菜や果物の栽培もできる。

<p>第六時 「高地の暮らし ～アンデス山脈での 生活～」</p> <p style="text-align: center;">高山気候</p>	<p>○ペルーの都市「クスコ」は、なぜ富士山の山頂ほどもある高地につくられたのだろうか？</p> <p style="text-align: center;">プチなぜ</p>	<p>○高地の暮らし、リヤマやアルパカの利用。 ○現在のペルーの首都である「リマ」は、灌漑設備が整う前は非常に降水量が少なく、作物が育たなかった。そのため、インカ帝国の時代に「クスコ」が都とされた。</p>
<p>第七時 「人々の生活と 宗教のかかわり」</p> <p style="text-align: center;">宗教</p>	<p>○なぜ、サウジアラビアの人は、飲食しない時期があるの？</p> <p style="text-align: center;">プチなぜ</p>	<p>○各宗教の特徴と、宗教間での対立など。</p>



② 本時の主題とねらい（第一時）

本時の学習課題である「様々な食文化があるにも関わらず、なぜ日本の主食は米なのだろう？」に対して、以下の答えを書くことができている。【思考・判断・表現】

米の生育には多くの水と温暖な気候が必要であり、日本の雨が多くて温暖な気候は米の生育に適しているから。

③ 本時の展開

学習活動	生徒への発問と指示 (○) 生徒の反応 (・)、資料 (*)	指導上の留意点 (☆)
1. 本時の学習課題を理解する。	<p>○「世界の料理あてクイズ」つぎの写真はどこの国の料理かあてましょう！</p> <p>*サイゼリヤのメニュー表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスタ→イタリア *フランスパン→・フランス *カレー→・インド *タコス→・メキシコ *マッシュポテト (・フィンランド) <p>○「白夜のある国」「サンタクロースの出身地」です</p> <p>*バンクー→ (・ガーナ)</p> <p>○チョコレートの名前で有名な国です</p> <p>*ポテト&チキン&プランテーション→ (・ペルー)</p> <p>○天空の城ラピュタのモデルとなった都市がある国です</p> <p>→・ペルー</p> <p>○各国の食事の中心となる主食を紹介しました。主食の食材は何だと思えますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> *パン、ナン、パスタ→・小麦 *米とカレー→・米 *トルティーヤ→・とうもろこし *メキシコの白とうもろこしの画像 *じゃがいも *バンクー、フフ→・キャッサバ 	<p>☆マッシュポテト、バンクー、ポテト&チキン&プランテーション料理は、生徒からは答えが出てこないのので、ヒントとして、「サンタクロースの国」「白夜のある国」、「チョコレートの名前で有名な国」、「天空の城ラピュタのモデルとなった都市がある国」というヒントを出す。</p> <p>☆スライドで、もう一度、各国の料理を見せる (イタリアのパスタは主食ではないことを補足)</p> <p>☆トルティーヤやバンクーの原材料は出てきづらいので、「とうもろこし」、「キャッサバ」の写真を提示</p>
1. 本時の学習課題を理解する。(続き)	<p>○これは難しいです。でも実は私たちになじみ深い飲み物の原料です。</p> <p>*タピオカドリンク提示</p> <p>○世界には、色々な主食があります。では今朝、みんなは朝ごはんは何を食べた？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン ・ごはん ・シリアル ・肉 等 <p>○いろんな食材をみんな食べているけど、日本の主食ってなに??</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米 ・パン <p>*日本の食料自給率のグラフ</p> <p>○小麦は何%?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12% <p>*米は自給率100%を超える資料</p> <p>○様々な主食があるにも関わらず、なぜ日本の主食は米なのだろうか？</p>	<p>☆日本の食料自給率のグラフから、小麦やとうもろこしなどの自給率の低さを知り、米の自給率に関しては100%であることを理解させる。</p>

<p>2. 本時の学習課題について予想する。(5分)</p>	<p>様々な食文化があるにも関わらず、なぜ日本の主食は米なのだろうか？</p>	<p>☆個人で予想させる時間をとる。予想を共有する。</p>
--------------------------------	---	--------------------------------



学習活動	生徒への発問と指示 (○) 生徒の反応 (・)、資料 (*)	指導上の留意点 (☆)
<p>3. 写真を提示。</p> <p>4. 資料から読み取ったことを発表する。(10分)</p> <p>5. 発表内容を教師の発問とともに整理する。</p>	<p>*米作り、小麦、じゃがいも栽培の様子</p> <p>○「米、小麦、じゃがいも」必要な何かの量が違います。写真から違いを見つけよう。</p> <p>・水の量 ・気温</p> <p>○「その国や地域の主食は、その国や地域の気候と深いかわりがあります。」気温と降水量のグラフから、米はどんな場所で主食とされるか読み取ろう！</p> <p>・配布資料や地図帳から読み取る。</p> <p>・プリントに記入</p> <p>・発表する</p> <p>○米が主食の地域はどんな場所？</p> <p>○降水量→・多い</p> <p>○気温 →・温暖</p> <p>○小麦が主食の地域はどんな場所？</p> <p>○降水量→・米地域より少ない</p> <p>○気温 →・米地域より寒い</p> <p>○主食が米となる北限はどここの国？</p> <p>・日本</p> <p>○とうもろこしが主食の地域はどんな場所？</p> <p>○降水量→・米地域より少ない</p> <p>○気温 →・温暖</p> <p>○いも類が主食の地域はどんな場所？</p> <p>○降水量→・多い～比較的少ない所</p> <p>○気温 →・温暖～寒い所も</p> <p>○じつは、最初の主食紹介で、いもは2種類</p>	<p>☆4人班で活動する。個人で読み取るが、わからなければ班員で協力する。</p> <p>☆複数の資料を活用することができるよう、机間巡視と指導を行う。</p> <p>☆米と比較して、考えさせる。</p> <p>☆日本が主食が米となる国の北限であり、北海道と同緯度のあたりでは、主食が米となる地域がないことにも気づかせる。</p> <p>☆とうもろこしについては、飼料として用いられることが多いことを伝える。</p>

	<p>出てきたのに気づいた？ →タピオカのやつとじゃがいも！ ○タピオカの原料、キャッサバは、温暖な地域のいもです。では、じゃがいものことを考えると、日本で1番じゃがいもを作ってるのはどこの都道府県？ *ポテトチップスの袋 ・北海道</p>	<p>☆北海道で生産がさかんなことを示すことで、じゃがいもは冷涼な地域のいもだと気づかせる。</p>
	<p>○最後に、確認と応用問題です。中国は、小麦が主食の地域と米が主食の地域とあります。北と南どちらが小麦の地域で？どちらが米の地域でしょう？ *中国の気温と降水量が描かれた地図 →・北が小麦、南が米！ ○日本人は、小麦・じゃがいもを主食にするのではなく、米を選んだ。なぜだろう？ ・降水量が多いから ・気候に合っていた。 ・あたたかいから ○でも、北海道では冷涼だよね ○気候に合っていたこと、当然、それは大前提で大切なことだけれど、それだけではなくこんなことも理由としてある。 *米の種もみ1粒から、500～1000粒の実がなるという資料。 ・量がたくさんできる。 ・小麦は米に比べると種子収穫量が少ない。 ○実は、日本の米作りは、人々の努力で、冷涼な気候でも可能なように進化させたのです。これについては、2年生で学習しましょう。</p>	<p>☆米が日本の気候に合っていたということだけでなく、種子収穫量が多いことで、より多くの人口を支えることができたからということを感じさせる。 ☆次年度の授業とつなげて、さらに深めていけるように意識づける。</p>
<p>6. 各地域がその気候にあった作物を育てて主食にしていることを理解し、そのことは人々の暮らし全般について言えることを学習し、まとめを行う。 (5分)</p>	<p>○各地域がその気候にあった作物を育てて主食にしていることをつたえ、 *スイカの写真を提示 ○気候や暮らしにあった主食として、スイカを主食にする地域もあることを伝え、まとめをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本では、温暖な気候と降水量の多さが米作りに適していたから。また、世界各地の人々は、住んでいる地域の環境に合わせて衣食住の工夫をしてきた。</p> </div>	<p>☆アフリカ・カラハリ砂漠の主食を例に、4大主食にとらわれず、気候と地域の暮らしに合ったその他の作物が主食になっていることにも気づかせる。</p>

(3) 本時のワークシート・配布資料

第1章 人々の生活と環境

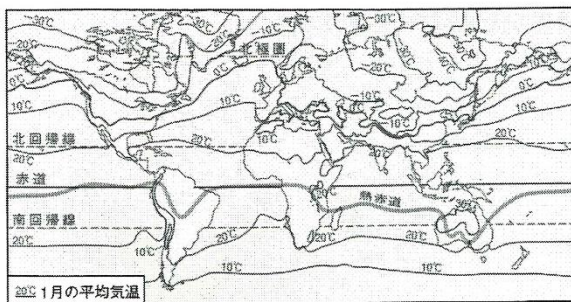
組 番名前

◆7：世界各地の衣食住とその変化◆

【目標：様々な食文化があるにも関わらず、なぜ日本の()なのか理由を解き明かそう】

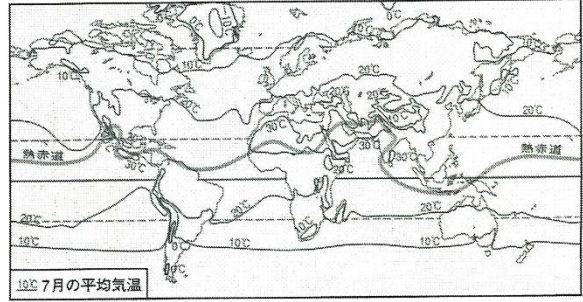
■気温と降水量から、四大主食がどんな条件のところに分布しているか調べてみよう！

次の、世界の平均気温の分布図と地図帳p11の②「1年間の降水量」を、教科書p41 図9「世界の主な食べ物」の分布図と重ね合わせて、それぞれの主食がどんな地域に分布しているか書こう！



▲ 1月の気温

(Diercke Weltatlas 2004,ほか)



▲ 7月の気温

(Diercke Weltatlas 2004,ほか)

主食	降水量	気温
米	(①)地域	(②)な地域
小麦	(③)地域	(④)な地域
とうもろこし	(⑤)地域	(⑥)な地域
いも類	(⑦)地域 と (⑧)地域	(⑨)な地域 と (⑩)な地域

世界各地で異なる食文化とその変化

●(⑪)…その地域の気候に合っており、多く作られる農作物と深いかわりがある。

現在→かつては和食が中心だった日本でも、パンなどの洋食やファストフードを食べることが日常的に。

世界各地の住居とその変化

●(⑫)…その地域で手に入りやすいものが材料とされる。

現在→都市部を中心に、(⑬)製の家や集合住宅も増えている。

世界のさまざまな衣服とその変化

●(⑭)…暑さや寒さ、強い日差しから身を守る役割がある。地域の違いを反映した素材・形。

現在→気候に関係なく、世界中の人に(⑮)や(⑯)などの衣服が定着。

※著作権に配慮して画像を一部差しかえています。

○世界各地の人々の生活が国・地域によって違うのは、なぜなのだろうか？
MQ. なぜ、主食、衣服、家の材料が国によって大きく異なるのだろうか？

自分の予想

みんなの予想

自分の答え

①

こちらに、授業ごとの「プチなぜ」
を書かせていく。

自分の答え

②

自分の答え

③

自分の答え

④

自分の答え

⑤

自分の答え

⑥

単元の問いに対
する自分の答え

1年 組 番 名前

確認欄

(4) 地理的分野の研究成果と課題

パイロット授業後の研究討議と、その後の授業づくり会議において、龍谷大学法学部の中本教授より多くの指導をいただいた。

【研究成果】

○「なぜ」発問の重要性の認識

パイロット授業は、単元を構造化する前段階の授業となったが、「なぜ？」の問いを積み重ねていくことで、生徒の考えが深まることを認識できた。また、学習指導要領の内容を正しく理解し、生徒が本質やその概念を理解するために、カリキュラム・マネジメントの実現が求められることを再確認した。

○教師の教材研究の大切さへの理解

中本教授は、単元を貫く問いの設定やカリキュラム・マネジメントにおいて、「教師がいかに教材の本質を理解しているか。」ということ、を、たびたび我々教員に問いかけられた。中本教授は、地理の学習は、地域的特色、すなわち地域の個性を探求する学習であるとし、そうであるならば、その主発問は「〇〇っていったいどんなところ？」という地域の個性や本質を求める「問い」によって、地域的解釈が「答え」として求められると述べられている。また、この問いこそ、地域、世界を取り扱う地誌学習の有用性と固有性であり、そういった意味では、「アメリカ合衆国」を中心に据えて学習する「北アメリカ州」の単元は、単元を貫く問いの設定が難しいと考えられた。アメリカ合衆国は、これまで多様な側面から研究がなされてきたがゆえに、それらをすべて網羅して、地域を解釈・説明することが難しい単元だからである。教科書通りに進めると、「窓」になってしまうこの単元を、教員がその本質をより深く理解し、農業・工業・民族分布等、それらすべてを説明できるような「問い」の設定が求められた。そのためには、まず、教員が「アメリカ合衆国を一言で表すと？」の問いに、答えることができるよう教材研究を行った。地理分野研究会と地区別研究会の研究討議での、「しがらみのない自由な国」・「自由と責任の国アメリカ」という意見を発展させ、アメリカ合衆国を、「自由と幸福追求の国」とした。また、この幸福追求においては、個人の幸福追求であると考え、農業・工業・民族分布などの事象が説明可能とした。

【課題】

○本当の意味での資料活用

パイロット授業では、生徒に興味を持たせるために多くの資料を用意した。しかし、それらは、既存の知識から容易に答えが導けるクイズのような活用であった。学習の入り口として、そのような方法を可としたが、「北アメリカ州」の学習に向けては、「本当の意味での資料活用」が求められた。今日、私たちがニュースなどでよく目にするアメリカ、そのアメリカが「資料」で理解され、その資料から生まれ出た「問い」を生徒自身がさらに追究することができる、すぐれた「資料」を準備すること、また、生徒が納得のもとに社会的事象を理解し、概念的知識を身に付けることができる資料活用が課題となった。

これらの課題を解決できるように研鑽に取り組み、地理授業の進展に生かしていきたい。

地理的分野・公開授業学習指導案

日時 令和6年11月22日(金) 3校時

学級 神戸市立小部中学校 1年1組

指導者 神戸市立小部中学校教諭

安岡 敬祐

1. 単元名

地理分野

第2部 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域

第4節 北アメリカ州 (帝国書院 中学生の地理 p 82～92)

2. 単元について

【学習指導要領より】

各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

ア (ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) 世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ (ア) 世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現すること。

【内容の取扱いについて】

(ア) 州ごとに設ける主題については、各州で暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

(イ) 取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。

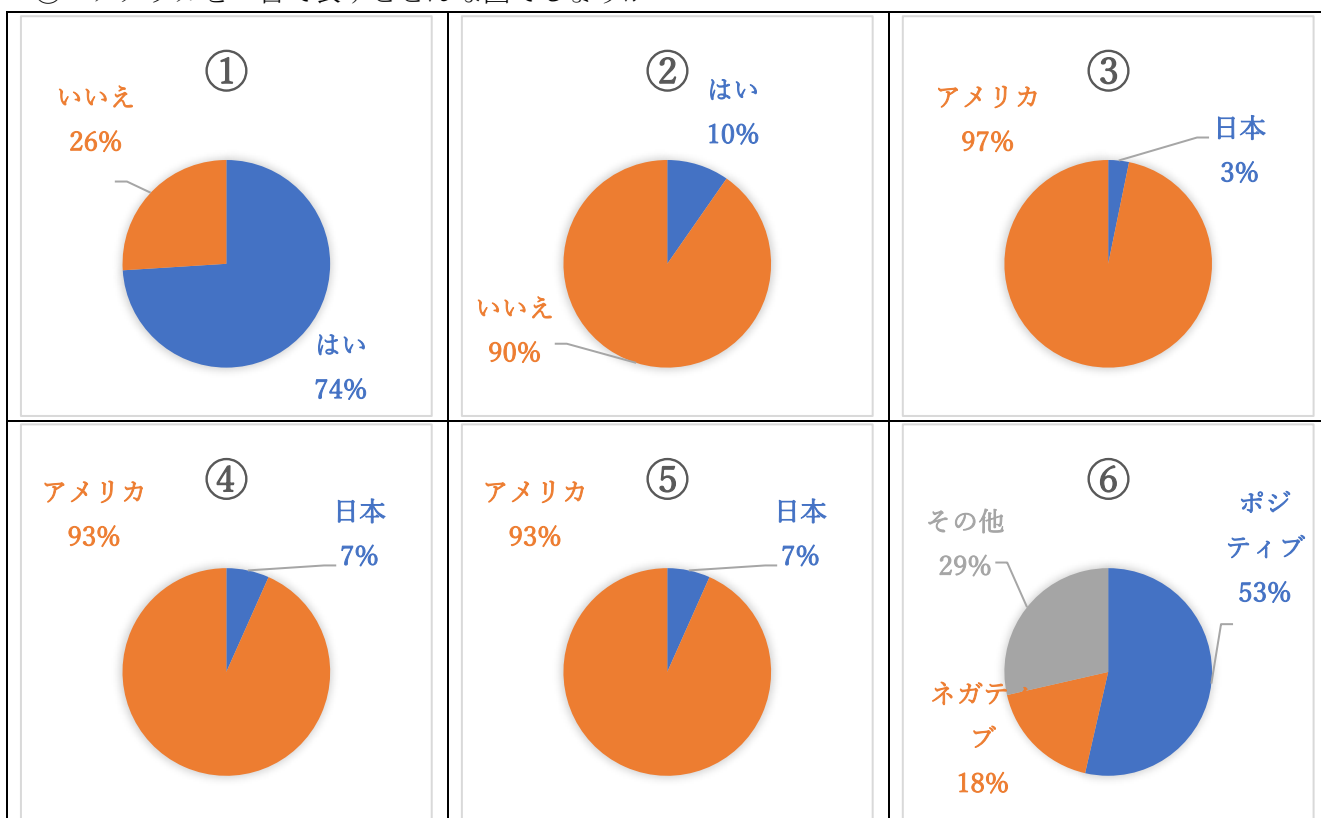
以上のことから、北アメリカ州の地域的課題について、アメリカ合衆国に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げ、課題を追究したり解決したりする授業を展開する。

3. 生徒の実態

本校は、神戸市北区に位置し、校区内六甲山への登山口を有し、自然豊かな環境の中で生活している。生徒たちは概ね前向きに授業を受けており、社会科の授業に対しても積極的に取り組むことができる。特に、グループワークで意見を交換する際には、自分の考えをしっかりと考えた後に相手に伝え、1人では気づくことのできない視点を発見し、考えを深める様子が見られる。

以下は、事前に実施したアメリカに関するアンケートの結果である。

- ① アメリカが6つの州のどの州に属するのか知っていますか？
- ② アメリカに行ったことがありますか？
- ③ アメリカと日本の面積を比べた時、大きいのはどちらでしょうか
- ④ アメリカと日本の人口を比べた時、多いのはどちらでしょうか
- ⑤ アメリカと日本のGDPを比べた時、規模が大きいのはどちらでしょうか
- ⑥ アメリカを一言で表すとどんな国でしょうか



⑥ 自由記述

A ポジティブな意見

- ・ 楽しく明るい国
- ・ 強い国
- ・ 成長し続けている国
- ・ 頑張れば生活できる
- ・ 植民地から独立した偉大な国
- ・ 様々な人が暮らせる国

B ネガティブな意見

- ・ 犯罪が多いイメージ
- ・ 束縛が強いイメージ
- ・ 物価が高い

C その他

- ・ トランプ元大統領
- ・ ジャンクフード
- ・ 自由の女神

日本とアメリカは地理的な距離が大きく、また、本校生徒はアメリカに渡航した生徒も少なく、アメリカという国に対して、漠然としたイメージをもっている生徒が多かった。しかし、時事的な内容を取り入れ、物価の話題を話の中に入れることができる生徒や今回の単元のテーマとなる様々な人が暮らす国であることに気が付いている生徒もいる。アメリカに対する認識を、資料を使って、客観的に分析し、アメリカとはどんな国なのかをとらえることができるようにサポートしたい。

4. 指導計画

(1) 単元の指導計画

★単元を貫く問い★「なぜ、アメリカに移り住んでくる人が多いのか」

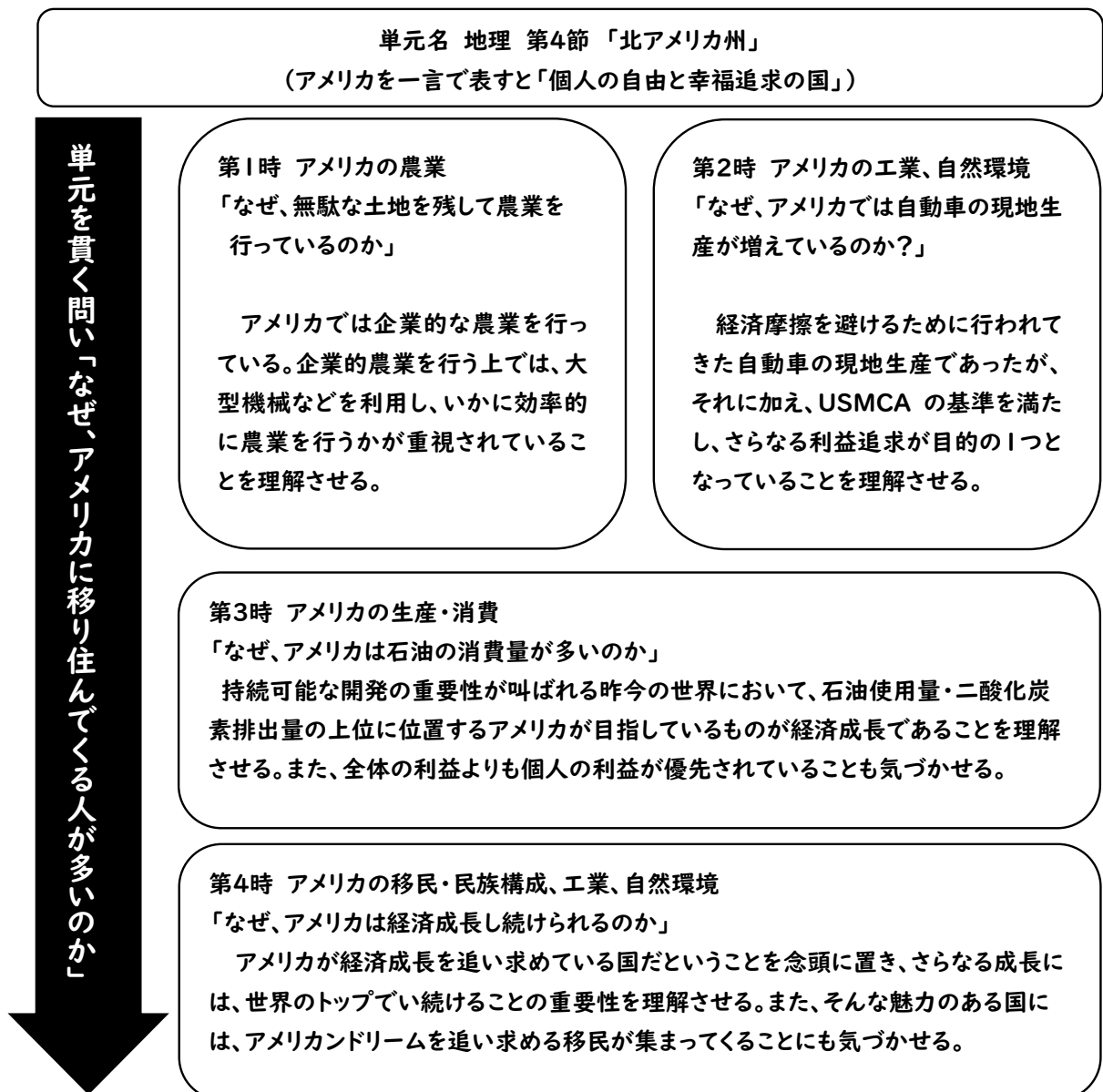
第1時 「なぜ、無駄な土地を残して農業を行っているのか」(アメリカの農業)

第2時 「なぜ、アメリカでは自動車の現地生産が増えているのか」(アメリカの工業、自然環境)

第3時 「なぜ、アメリカは石油の消費量が多いのか」(アメリカの生産・消費) 【本時】

第4時 「なぜ、アメリカは経済発展し続けられるのか」(アメリカの移民・民族構成、工業、自然環境)

(2) 単元構造図



5. 本時のねらい

- 車社会化に代表されるアメリカ合衆国の大量生産・大量消費の生活様式の特徴と課題について、ガソリン消費量、二酸化炭素の排出量、GDPの推移などの資料を用いて理解させる。
- アメリカ合衆国の生活や文化の特徴や課題から、アメリカ合衆国が自国の経済発展を最優先に考えて生産を行っていることに気付かせる。また、京都議定書離脱やSDGsについても触れて、「アメリカとはどんな国であるか」という大きなテーマに迫る。

6. 評価規準・基準

(1) 本単元の評価規準

観点1	観点2	観点3
世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。	北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活の様子を基に、多面的・多角的に考察している。	世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化について主体的に追究し、課題を解決しようとしている。

(2) 本時の評価基準（思考・判断・表現）

A	B	C
アメリカ合衆国のガソリン消費の目的について理解し、経済発展と環境への取り組みについて対比させて考察し、アメリカがどのような国かを本質的にとらえることができる。	アメリカ合衆国のガソリン消費の目的について理解し、アメリカの経済発展と環境問題への取り組み姿勢を対比させて考察できる。	アメリカ合衆国のガソリン消費が多い理由を、工業製品の生産と資源の産出と結び付けて理解できる。

7. 本時の展開

学習活動	生徒の活動（・） 生徒への発問・指示（○） 提示する資料（＊）	指導上の留意点（・）	評価
1. 導入 （3～5分）	○地球規模で起こっている環境問題を挙げてみよう。 ＊地球温暖化の仕組みの図	・地球温暖化が出たときに、その要因についても触れる。	
本時の学習課題「なぜ、アメリカは石油消費量が多いのか」			
2-1. 展開① （20分）	<div data-bbox="405 734 1422 833" style="border: 2px solid orange; padding: 5px; text-align: center;">ミッション①：なぜ、各国には温室効果ガスの削減目標達成が求められているのか</div> <ul style="list-style-type: none"> ＊世界の石油消費量 ＊世界の平均気温の変化 ＊パリ協定・SDGsの内容 <p>・資料からミッション①の答えを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使って、資料を提示する。 ・平均気温の上昇と温室効果ガスの増加との相関関係について説明する ・SDGsを通して、環境問題が国として取り組むだけでなく、個人としても取り組むべき課題となっていることに気づかせる。 	思考判断表現
2-2. 展開② （20分）	<div data-bbox="405 1245 1414 1344" style="border: 2px solid orange; padding: 5px; text-align: center;">ミッション②：なぜ、京都議定書やパリ協定からの離脱が必要だったのか</div> <ul style="list-style-type: none"> ＊アメリカの分野別温室効果ガス排出量割合 ＊駐車場に囲まれた大リーグのスタジアムの写真 ＊100人あたりの自動車保有台数 ＊ニューヨークの写真 ＊アメリカにおける再生可能エネルギーの活用 <p>・資料からミッション②の答えを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習と関連させ、アメリカにおける自動車の重要性について、学びを深める。 ・環境への配慮より自国の経済発展を優先することに気付かせ、アメリカは自由と幸福追求の国であることに迫りたい。 	思考判断表現
3. まとめ （5～7分）	板書をノートにまとめる。 ワークシートの「本時の学習課題」の欄に、本日の学習内容をふまえて記入する。	・アメリカの石油消費量について考え、アメリカという国が何を優先して国の経済を回しているかというところに迫る。	思考判断表現

社会科 単元を貫く問いを考えるためのプリント

アメリカを一言で表すと? (WHATの質問)	
自分の考え 個人の自由と幸福追求の国	他の先生方の考え
なぜ、その一言で表すことができるのか	
<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカの帰化法に自由・平等・共和主義などの理念以外は規定されていないから ・ アメリカが立ち返るべき民族的な理念がないから ・ アメリカ独立宣言の中に、幸福追求権について言及しているから 	
単元を貫く問い=なぜ、アメリカには移り住んでくる人が多いのか	

○ 構造化を見据え、“なぜ”発問を考えよう(各時間の学習課題を考える)

① なぜ、無駄な土地を残して農業を行っているのか	⑤
② なぜ、アメリカでは自動車の現地生産が増えているのか	⑥
③ なぜ、アメリカは石油の消費量が多いのか	
④ なぜ、アメリカは経済発展し続けられるのか	

単元を貫く問い

- “なぜ”発問①
- “なぜ”発問②
- “なぜ”発問③

社会科 自己分析シート

単元を貫く問い なぜ、アメリカへ移り住んでくる人が多いのか	
自分の考え	みんなの考え

○ 授業自己分析

番号	学習課題	課題に対する答え	自己評価
①	なぜ、無駄な土地を残して農業を行うのか	効率よく農業を行うため +α 企業的な農業経営(効率+利益追求)を行っているから	
②	なぜ、アメリカでは自動車の現地生産が増えているのか	貿易摩擦を避けるため +α アメリカ側の雇用を守るため(USMCAにおいて、関税の免除受けるため)	
③	なぜ、アメリカは石油の消費量が多いのか	経済成長を続けていくうえで必要不可欠だから +α 持続可能な社会の実現という全体の利益よりも個人の利益が優先されているから	
④	なぜ、アメリカは経済成長し続けられるのか	最先端技術の開発を進め、利益を出し続けているから +α 優秀な人材が移民として流入し、よいサイクルが生み出されているから	
⑤			

☆ 単元を貫く問いに対する答え

アメリカは裕福な暮らしをするために、恵まれた資源を生かし、農業では世界を引っ張り、また、工業においても、世界中の人々の暮らしに浸透する製品を生み出し続けている。発展を続けるアメリカは優秀な人材を求め続け、その職と経済的安定を求めて、移り住んでくる人が多い。全体の利益よりも個人の利益を優先することで、アメリカンドリームをつむチャンスがあると感じさせ続けているから。

◎他の単元で使えそうなキーワードとその理由